

里山の未来を 耕す

宮城県と岩手県との県境に位置する登米市東和町米川。
傾斜に沿って畑や田んぼが広がる、典型的な中山間地である。
不利な条件が多く敬遠される土地だが、
この土地だからこそ「豊かな農業」ができることを発信しようとする若者たちがいる。
複合経営で農業の課題解決に挑む、「水漏れ日農園」の奮闘を紹介しよう。



左から、水漏れ日農園の福井真也さん(30)、鎌田大地さん(29)、鎌田鉄朗さん(61)。



大学を卒業してすぐに就農した大地さん。就農後8年目の夏を迎えた。



畑に顔を出した特別天然記念物、ニホンカモシカ。ここではありふれた光景とのこと。

シタン」が住み暮らしたと言われる里。山と谷が入り組んだ典型的な中山間地域だ。その中の小高い丘の中腹に、鎌田大地さん(29)が経営する「木漏れ日農園」がある。

大地さんは登米市の平野部、南方町（なまがた）の出身。一方、東和町米川の農園がある場所は、母・八重子さん(61)の実家だ。「母の実家に行くたびに野山を駆け回って遊んだり、親戚が集まってバーベキューをしたり、楽しかった思い出がいっぱいあります。しかし、母方の祖父母が亡くなると家も畑も木々に覆われて、山との見境がつかないほどに荒れていったという。

いほどに荒れていったという。そんな様子を見ていた大地さんは、進路を決める高校2年の時に「農家になる！」と家族に宣言する。ところが、父方の祖父母は「百姓なんて儲からないからやめなさい」と猛反対。祖父母は地域でも良い米を作ると評判の農



ささげの収穫をする大地さんと貴也さん。大学時代以来の友人だ。



農園は大地さんにとって母方の実家。近くの野山や川で遊んだ思い出が忘れられないという。



典型的な中山間地の米川地区。海から温った風が入り日照量も限られる。

2013年、鎌田大地さんはある震災イベントに参加していた。端っこで所在なげに佇む大地さんの隣には、自分と同いような顔をした男子学生がいた。のちに農園のパートナーとなる福井貴也さんだ。

東北大学で農学を専攻する大地さんと、岩手大学で林学を学ぶ福井さん。話してみると、福井さんも自分と同様に現場で働くことを志望する変わり種。しかも原付バイクで、各地の林業家を訪ねる旅の最中だという。出会ったその夜に朝まで飲み明かした二人はすっかり意気投合!

大学4年の時は、車中泊をしながら農業や林業の先進地を見て回った。自由気ままな二人旅。「いつか一緒に農園ができればいいな」。そんなことを語り合いながら、二人は将来に想いを馳せた。22歳。人生はまだ始まったばかりだ。

将来は農家になる!

のどかな山あいの風景が広がる登米市東和町米川は、かつて「隠れキリ

家だっただけに、後ろ向きの発言が出るとは思わずショックを受けた。逆に「何とんでもやり遂げてみせる!」と、大地さんのやる気がついていた。

米川でも持続できる農業を求めて中山間地域の農業事例を自力で調べ始めた。行き着いたのが、農林畜産業の複合経営。「これなら母方の祖父母の土地も、父方の平場の農地も活かした農業ができると思ったんです。目標を定めた大地さんは、農業経営を学ぶために東北大学農学部に進学。夢の一步を踏み出した。

農業、木こり、開墾、ときどき大学

大学では、研究室で農家の経営事例を学ぶ傍ら、現場を重視して活動した。若手農家コミュニティに参加し、様々な農家と交流を持ち、ある時は農作業の手伝いに、ある時は生産者と消費者をつなぐイベント開催に参画した。冬場には森林管理に取り組むNPOで木こり修行をしている。将来の複合経営に役立つ技術と、ネットワーク